

第4回 2025年デフリンピック大会に係る 大会準備連携会議 議事次第

日時：令和5年8月22日11:00～

場所：東京都庁第一本庁舎42階
特別会議室B

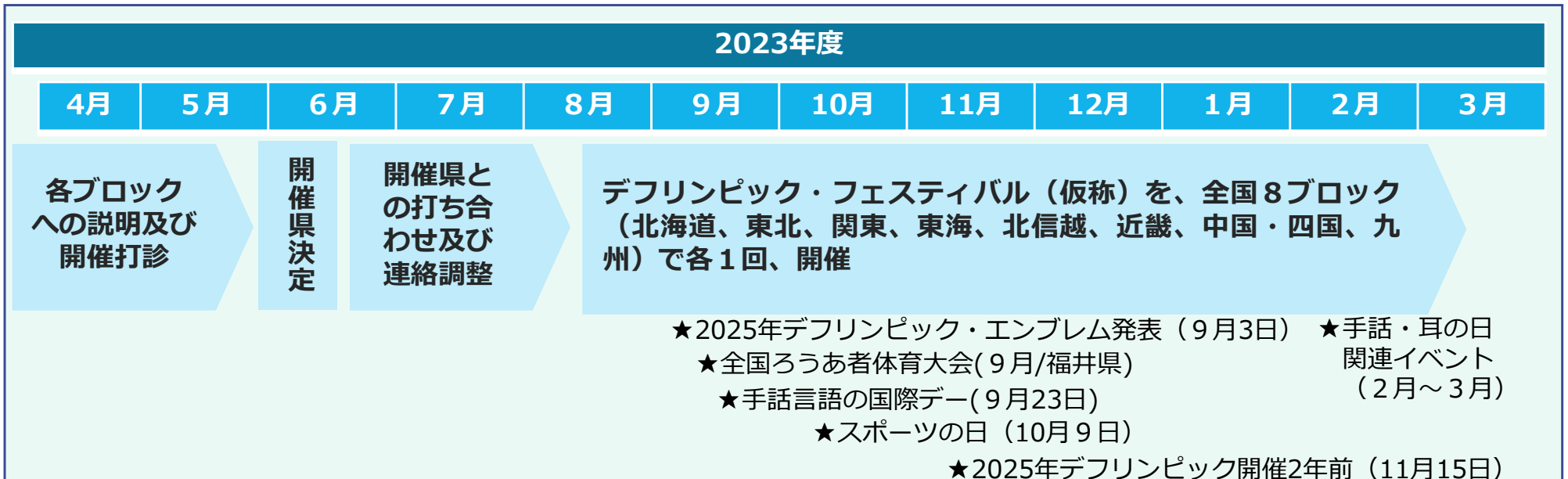
1. 挨拶
2. 運営委員会における検討状況
3. デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議について
4. 第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025大会概要
5. 意見交換

1. 2023年度事業「全国への気運醸成の推進事業」

① デフリンピック・フェスティバル（仮称）案

- デフリンピック・フェスティバル（仮称）の開催の取り組み
→2025年デフリンピックへの気運醸成やデフリンピックやデフスポーツについて関心や認知の向上を図るため、全国8ブロックでの開催の取り組みを後押しする
- 実施個所：全国8ブロック（北海道、東北、関東、東海、北信越、近畿、中国・四国、九州）
→★札幌市（北海道）、郡山市（東北）、★神奈川県（関東）、静岡県（東海）、福井県または石川県（北信越）、大阪府（近畿）、★鳥取県（中国・四国）、★福岡県（九州） ※★は開催確定

② スケジュール 進捗状況



③実施方法と助成金額について

- きこえない人ときこえる人の協働を通じた共生社会やつながりの実現を具体化するため、実施主体は地域ろう当事者団体と地域行政や関係機関との共催、もしくは地域ろう当事者団体主催、地域行政後援を基本とする。
- 運営委員会はその取り組みを後押しする為、実施主体との連携やその取り組みへ、地域ろう当事者団体へ合計80万円（1か所10万円×8ブロック）の助成を行う。

2. 2023年度事業「大会エンブレム制作」

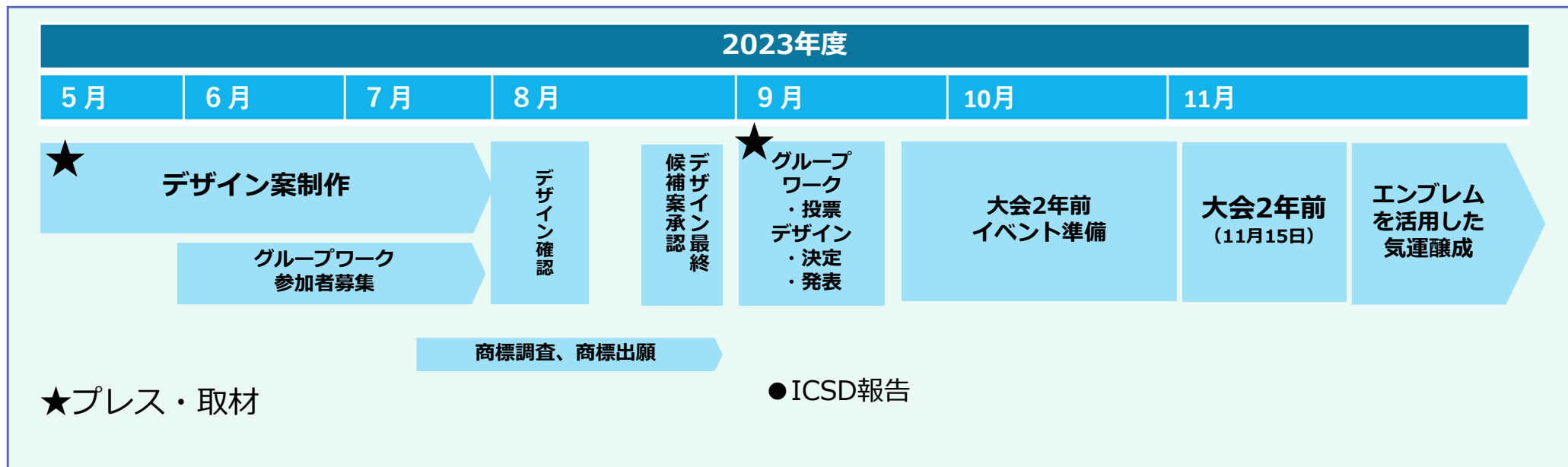
1) 2025大会エンブレムの制作 進捗状況

○ 筑波技術大学の学生によるデザイン案の制作

○ グループワーク 投票、決定、発表

→9月3日（日）午後には東京都パラスポーツトレーニングセンターで、都内在住・在学の中高生（ろう学校含む）によるグループワークを実施。候補案を製作した学生からのプレゼンを聞き、参加者同士の意見交換や、またデフアスリートとの交流を通じてデフリンピックへの理解を深め、候補案への投票を行い、決定・発表を行う

2) スケジュール 進捗状況



3. 2023年度事業「社会的・文化的プログラムの検討」

1) 社会的・文化的プログラムの検討について

○社会的・文化的プログラムの検討

→外国からの選手、観客等だけではなく、全国への気運醸成に資するプログラムとなるよう、きこえない芸術文化当事者団体や外部有識者、東京都等と連携・協力し、プログラムの調査・検討を進める

○検討チームの結成

→チーム リーダー：植野 圭哉（千葉県聴覚障害者協会理事長／全日本ろう者演劇協会事務局長）

委員：きこえない芸術文化当事者団体 委員（2名）

外部委員 2名（案）

→過去のデフリンピック大会の社会的・文化的プログラムの調査を基に、東京2025デフリンピックにおける社会的・文化的プログラム案の策定を行う

プログラム案は、きこえない人の文化芸術活動や手話言語文化について、国内外の人に触れてもらうことを機に、“誰一人取り残さない世界（SDGs）”の実現につながることを目的とする

2) スケジュール 進捗状況

2023年度

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

検討チーム
の委員人選、
調整

○ 検討チーム会議の実施（全8回を想定）

○ 過去デフリンピック大会における社会的・文化的プログラムの調査

○ 東京2025デフリンピックにおける社会的・文化的プログラム案の策定

デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議について

- 大会ビジョンをはじめ、競技会場、宿泊・輸送など、大会の実務面での計画から構成される「開催基本計画」について、全日本ろうあ連盟、東京都、スポーツ文化事業団の三者で作成
- 作成にあたり、障害当事者や有識者の意見を計画に反映させるため、「デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議」を事業団内に設置
- 7月20日に第1回会議を開催し、今後、9月、10月にも開催予定

	区 分	委員	競技・役職 等
1	デフアスリート	<small>したら あきひさ</small> 設楽 明寿	<ul style="list-style-type: none">・ デフ陸上・ 筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科
2		<small>たけかわ すみこ</small> 竹川 寿美子	<ul style="list-style-type: none">・ デフカーリング・ 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
3	パラリンピアン	<small>ね ぎ しんじ</small> 根木 慎志	<ul style="list-style-type: none">・ 車いすバスケットボール・ 一般社団法人 日本パラリンピアンズ協会 副会長
4	オリンピック	ヨーコ ゼッターランド	<ul style="list-style-type: none">・ バレーボール・ 日本女子体育大学 准教授



第25回 夏季デフリンピック競技大会 東京2025 大会概要

一般財団法人全日本ろうあ連盟

東京都

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

Contents

はじめに
1

デフリンピックについて
2

大会ビジョン
3

大会名称
6

大会エンブレム
7

準備・運営体制
8

大会期間、参加国・選手数
9

実施競技、競技会場等
10

はじめに



- 2022年9月9日、10日にオーストリア（ウィーン）で開かれた ICSD総会において、一般財団法人全日本ろうあ連盟が2025年デフリンピックの開催地に立候補し、多くの支持を得て東京開催が正式決定しました。
- 日本では初めての開催であり、また1924年にパリで第1回デフリンピックが開催されてから、100周年となる歴史に残る大会になります。
- この記念すべき大会の開催を契機に、デフリンピックやデフスポーツへの理解のすそ野を広げ、障害のあるなしに関わらず共にスポーツを楽しみ、互いの違いを認め、尊重しあう共生社会づくりに貢献していきます。

デフリンピックについて

- 国際ろう者スポーツ委員会（ICSD：International Committee of Sports for the Deaf）が主催し、夏季と冬季それぞれ4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会
- 第1回は、1924年フランスのパリで開催
- 「デフリンピック」の名称は、2001年に国際オリンピック委員会（IOC）が承認
- 競技は一般の競技ルールに準拠するが、競技場に入った時点から、補聴器等の使用は禁止されることや、競技運営に国際手話のほか、スタートランプや旗などを利用した視覚による情報保障が特徴
- 最近の過去大会
 - 【夏季大会】
 - 2021 カシアス・ド・スル（ブラジル）
 - 2017 サムスン（トルコ）
 - 2013 ソフィア（ブルガリア）
 - 【冬季大会】
 - 2019 ヴァルテッリーナ（イタリア）
 - 2015 ハンティ・マンシースク（ロシア）
 - 2007 ソルトレイクシティ（アメリカ） ※2011年大会は中止

大会ビジョン

1. デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ

- デフアスリートを主役に、最高のパフォーマンスを発揮できるよう大会準備を進め、その姿を通じて、本来、スポーツが持っている素晴らしさとともに、デフリンピックやデフスポーツの魅力や価値を発信し、普及・啓発に努める。
- また、あらゆる人が協働した大会運営や子どもたちの参画など、多様な視点を大切にした大会運営をめざす。

大会ビジョン

2. 世界に、そして未来につながる大会へ

- 大会を通じた手話言語の理解・普及・拡大など従来からの情報保障の推進・強化に加え、デジタル技術を活用した、新しいコミュニケーションツール等の開発・社会への普及を促進する。
- このような取組を通して、国籍や障害のあるなしに関わらず、誰もが心を通わせることのできる街・東京の魅力を感じてもらい、世界との絆を深めていく。

大会ビジョン

3. “誰もが個性を活かし力を発揮できる” 共生社会の実現

- 大会開催を機に、デフリンピック・ムーブメントとして、デフスポーツやろう者の文化への理解を促進し、障害のある人とない人とのコミュニケーションや心・情報・街のバリアフリーをさらに推進する。
- このムーブメントを通して、互いの違いを認め、尊重しあい、誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会づくりに貢献する。

大会名称

正式名称	日	第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025
	英	25th Summer Deaflympics Tokyo 2025
略称	日	東京2025デフリンピック
	英	TOKYO 2025 DEAFLYMPICS

大会エンブレム

○ デザイン案の制作

- 国内唯一の聴覚障害者、視覚障害者のための大学である、国立大学法人筑波技術大学の総合デザイン学科を中心とした産業技術学部の学生がエンブレムのデザイン案を複数制作する。

○ デザインの選考・決定

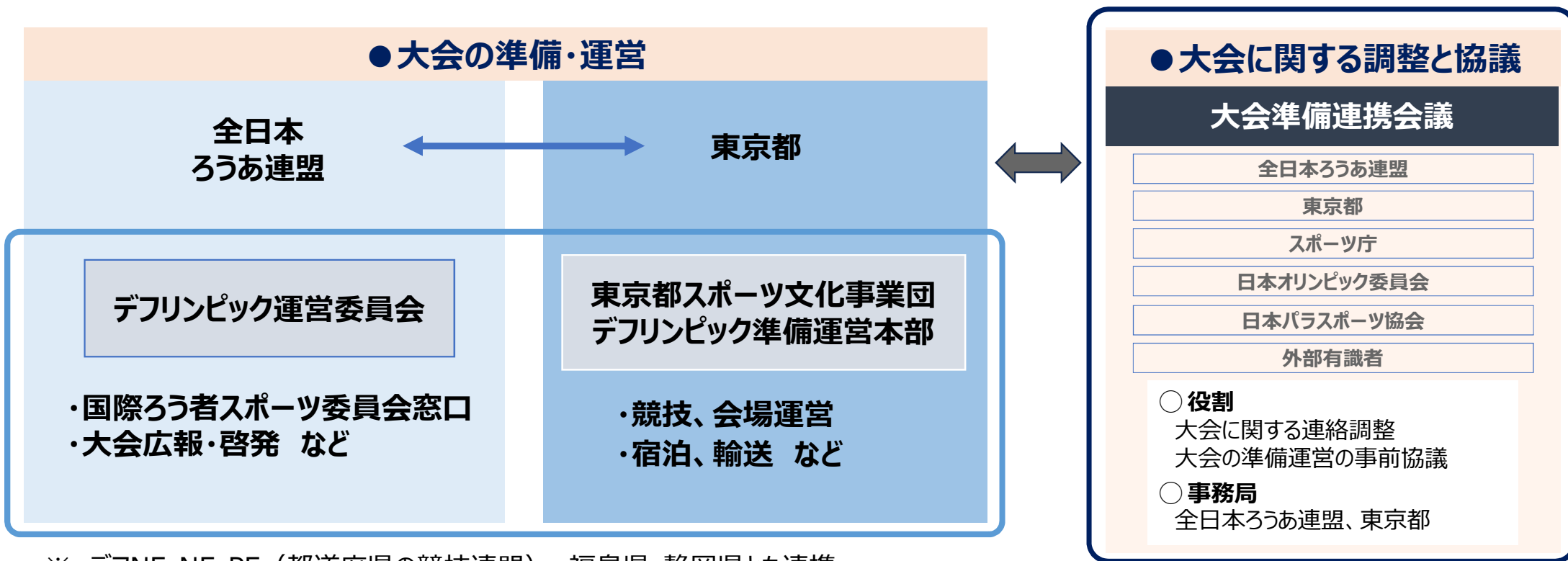
- 都内の中高生（ろう学校を含む）の参加によるグループワークを実施
- グループワークでの投票によりデザインを選考し、決定する（2023年9月）



- めざすべき共生社会を体現する制作プロセスとする
- 制作過程において、手話言語通訳に加え、デジタル技術を活用し、コミュニケーションを図る

準備・運営体制

- ・ 全日本ろうあ連盟と東京都は協定を締結し、大会準備運営にかかる業務を分担
- ・ この分担に基づく業務を遂行するため、大会開催に係る国際ろう者スポーツ委員会の窓口などを担う組織を全日本ろうあ連盟の内部に設置。競技、会場運営などの運営実務は東京都スポーツ文化事業団が担う



※ デフNF・NF・PF（都道府県の競技連盟）、福島県・静岡県とも連携

大会期間、参加国・選手数

大会期間

- 2025年11月15日～26日（12日間）
 - ・ 開会式：11月15日
 - ・ 閉会式：11月26日

参加国

- 70～80か国・地域

選手数

- 約3,000人

実施競技、競技会場等

	競技名	会場
0	開閉会式	東京体育館
1	陸上	駒沢オリンピック公園総合運動場等
2	バドミントン	武蔵野の森総合スポーツプラザ
3	バスケットボール	大田区総合体育館
4	ビーチバレー	大森東水辺スポーツ広場
5	ボウリング	東大和グランドボウル
6	自転車（ロード）	日本サイクルスポーツセンター
7	自転車（MTB）	日本サイクルスポーツセンター
8	サッカー	Jヴィレッジ
9	ゴルフ	若洲ゴルフリンクス
10	ハンドボール	駒沢オリンピック公園総合運動場

	競技名	会場
11	柔道	東京武道館
12	空手	東京武道館
13	オリエンテーリング	日比谷公園 伊豆大島
14	射撃	味の素ナショナルトレーニングセンター
15	水泳	東京アクアティクスセンター
16	卓球	東京体育館
17	テコンドー	中野区立総合体育館
18	テニス	有明テニスの森
19	バレーボール	駒沢オリンピック公園総合運動場
20	レスリング (フリースタイル)	府中市立総合体育館
21	レスリング (グレコローマン)	府中市立総合体育館

競技会場

